

会員各位

平成 27 年 5 月 13 日

胃 X 線検査の安全性確保の周知徹底について

一般社団法人日本消化器がん検診学会
理事長 深尾 彰

関東甲信越支部より、平成 27 年 5 月 8 日に車検診における胃 X 線撮影で死亡事案が発生したとの報告がありました。胃 X 線検査の実施体制においては、安全性確保について日頃より十分ご配慮いただいていることと存じますが、このたびの事案を踏まえ、各位が関与されている諸機関にさらに周知徹底されるようお願い申し上げます。

参考までに、関東甲信越支部のホームページに掲載された注意喚起を促す文書を下記に添付いたします。

記

平成 27 年 5 月 11 日
日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部
支部長 入口陽介

胃 X 線検査安全対策の再徹底に関するお願い

去る平成 27 年 5 月 8 日(金)群馬県沼田市におきまして、某検診機関が実施した胃 X 線撮影(車検診)で、撮影台から女性受診者が転落し壁との間に頭を挟まれ死亡する事故が発生致しました。会員各施設におかれましては、胃 X 線検査における安全対策を必ず実施して頂き、二度と同様な事故が起こることのないように、安全、安心で精度の高い胃 X 線検査の遂行と、胃がんの二次予防に貢献されることを改めてお願い申し上げます。

徹底事項

- ①「胃 X 線検診安全基準」に基づき、検査前に逆傾斜時の肩当てや手すりなどの注意点について、個別説明を受診者全員に実施すること(可能であれば写真やイラストなど具体的な説明方法が望ましい)。
- ②「新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版(2011)」に基づき、前壁撮影時での布団を適正に使用することにより、過度な傾斜角度を避ける手技とすること。
- ③ 逆傾斜撮影時には、受診者に頭が下がることを口頭で十分説明し不安や恐怖心を軽減した上で、肩当ての使用と手すりの注意を徹底し、前壁撮影前後における受診者の状態を直接確認すること。
- ④ 撮影台の起倒動作中においても、術者からの死角がない撮影装置の構造とすること。検診車では、レイアウト的に困難な場合は、必ず監視カメラなどで目視可能とすること。
- ⑤ 外国人や高齢の受診者には通訳や家族などの同伴が望ましく、近接撮影を行うことも含めて安全性への配慮が特に重要である。
- ⑥ バリウム誤嚥や検査中の骨折、検査後のバリウム排泄遅延など、安全対策に関する事を、検診担当の全スタッフに啓発する。
- ⑦ 胃 X 線撮影を担当される診療放射線技師には、十分な知識を身につける上でも、本学会の胃がん検診専門技師認定を取得されるようにご指導下さい。